



一般社団法人 日本新聞折込広告業協会
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-10-4 神田司町国土ビル3階
TEL:03-6285-2687 FAX:03-6285-2659 <https://www.j-noa.jp>



J-NOA 新聞折込 広告大賞 2022

受賞作品集

J-NOA Orikomi Advertising Grand Prize 2022

J-NOA 新聞折込広告大賞2022 開催概要

名 称 J-NOA 新聞折込広告大賞 2022

趣 旨 新聞折込広告の媒体特性や機能を活用し、可能性を開拓した作品や媒体価値向上に貢献した作品を募集し表彰します。

テ ー マ 新聞折込広告の未来
～わくわくするオリコミのある暮らし～

主 催 一般社団法人日本新聞折込広告業協会（略称 J-NOA）

協 賛 公益社団法人 日本新聞販売協会

後 援 一般社団法人 日本新聞協会
一般社団法人 日本広告業協会
公益社団法人 日本アドバタイザーズ協会
一般社団法人 日本印刷産業連合会
日本製紙連合会

応募資格 J-NOA 会員社(正会員、特別会員)および企業・団体・商店ほか個人での応募も可能です。但し、J-NOA 事務局、新聞折込広告大賞実行委員など関係者は応募できません。一企業・個人から複数の作品応募も可能とします。

※著作権・肖像権等の諸権利について、出品者の責任において事前に、承諾が必要となります。
※広告会社などが広告主企業の承諾を得た場合は、他薦応募が可能です。

応募作品 2021 年 8 月 1 日（日）～ 2022 年 7 月 31 日（日）までに日本国内の新聞に折込まれた「新聞折込広告」とします。（フリーペーパー、ポスティングでの単独折込は除く）

審査員 および審査基準 J-NOA 新聞折込広告大賞 2022 審査員（敬称略、順不同）

審査委員長 笹井 清範（商い未来研究所代表、「商業界」元編集長、一般財団法人食料農商交流協会理事）

審査員 東 靖雄（公益社団法人日本新聞販売協会会長）
増井 一実（一般社団法人日本新聞折込広告業協会 理事長）
土橋 誠志（J-NOA 新聞折込広告大賞実行委員長／一般社団法人日本新聞折込広告業協会 副理事長）
中川 雅夫（折込広告全国大会実行委員長／一般社団法人日本新聞折込広告業協会 副理事長）
山田 樹（一般社団法人日本新聞折込広告業協会 専務理事）

賞

J-NOA 大賞、未来わくわく賞、特別賞、ブロック賞

審査基準

- | | |
|---------------|--|
| ① 成果性 | 広告の目的(ブランディング、売上貢献、集客など)に見合った効果が得られているか |
| ② 信頼・公共性 | 地域の暮らしに役立つ新しい情報が与えられているか、そして広告主の信頼性を高めているか |
| ③ 機能・創造・企画性 | 折込広告の特性や機能、新しい魅力やオリジナリティが感じられるか |
| ④ 話題・娯楽性 | 楽しさ、ワクワク感、親近感が感じられるか |
| ⑤ 未来・継続性 | 創造性に富み将来に可能性を広げているか、また定期的に実施するなど継続性があるか |
| ⑥ デジタル施策との融合性 | オンライン to オフライン施策が行われているか |



ごあいさつ

平素より、一般社団法人日本新聞折込広告業協会（略称 J-NOA）の活動に対し、ご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

今回 J-NOA では、創立以来実施を検討してきた「J-NOA 新聞折込広告大賞」を創設いたしました。3月10日から8月31日の期間で募集を行い、全国の皆様から160 作品と数多くの優秀な作品をご応募いただきました。誠にありがとうございました。私どもも、改めて折込広告の持つ可能性や多様性を再確認する機会となりました。ご応募いただきました各社の皆様には厚く御礼申し上げます。

審査会を9月15日に開催いたしましたが、160 作品、どれもが素晴らしい作品のため、審査は長時間に及びました。その結果 14 作品を入賞とさせていただき、本誌に掲載させていただきました。

「新聞折込広告大賞」は、新聞折込広告が持つ新たな可能性と未来を拓く媒体価値の創造を目的として、今後も開催してまいります。J-NOA では、これからも新聞折込広告の媒体価値を高め、社会性の向上を図る為の活動をしてまいります。

何とぞご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人日本新聞折込広告業協会 理事長 増井 一実



3



広告主	サミット株式会社	出品者	株式会社オリコミサービス
タイトル	「サミットのバリアフリー」紹介	折込日：2021年8月24日 サイズ：B3	



広告主	自由が丘商店街振興組合	出品者	株式会社朝日オリコミ
タイトル	Jiyugaoka Sweets festa!	折込日：2022年4月30日 サイズ：B3	



審査員コメント

話題を呼んだ「総選挙」をはじめ、従来の食品小売り新聞折込広告の枠に囚われない企画力で知られる同社が“人”を前面に押し出した秀作。全国スーパーマーケット協会「消費者調査 2019」によると、「店員の対応の悪さ」が今後利用したくない理由の上位にランキングされるように、人は店の盛衰を決める重要な商品。本作は案内係の人柄や顧客とのエピソードを“声”として掲載することで親近感を訴求。対顧客ばかりではなく、パートタイマーの応募数にも好影響をもたらしているにちがいない。裏面ではハード面の買物のしやすさを伝えている点も見事。

審査員コメント

「スイーツの街」として有名な自由が丘がイベント中止を余儀なくされたコロナ禍を乗り越え、3年ぶりに開催する「スイーツフェスタ」の告知だけにとどまらず、その先の未来を目指す熱意が伝わる一枚。街の強みを「自由が丘 SDGs 宣言」として、17の持続可能な開発目標の中から「住み続けられるまちづくりを」など3つの目標を打ち出すことで、住みたい街ランキング上位常連のブランド力をさらに高めている。また、コロナ感染防止対策として導入されたスマホアプリによるデジタルスタンプラリーのやり方もわかりやすく示されている。



広告主	株式会社ブルーストーク	出品者	株式会社読宣
タイトル	明日7月11日は「ラーメンの日」 (そして今日7月10日は参議院選挙の投票日)	折込日: 2022年7月10日 サイズ: A2(パノラマ・サイズ/観音開き)	



広告主	サニーベッカリー	出品者	株式会社オリコミサービス
タイトル	6月イベントチラシ	折込日: 2022年6月1日 サイズ: B4	



審査員コメント

縦長紙面を生かし、こだわりの麺のツヤの良さとコシの強さを表現している点に高評価。同店をプロデュースした吉本芸人起用し、ユーモアあふれる内容になっている。コロナ禍の宅配需要を狙ったポスティングで成果を挙げ、さらに客層拡大を目的に新聞折込広告へ格上げするという展開は、新聞折込広告の潜在能力を証明している。

審査員コメント

裏面を応募用紙とし、父の日(6月第3日曜日)に向けた「お父さんの似顔絵コンテスト」を訴求する一枚。応募時、作品が掲示された時と、繰り返しの来店を促している。その他のイベントやお得な情報があることを直感的に認識してもらおうと、紙面をカレンダーやすごろくのようにデザインしている点も注目度を高めている。

特別賞

J-NOA Orikomi
Advertising
Grand Prize 2022

広告主

株式会社コモディイイダ

出品者 株式会社サンケイアイ

タイトル

コモディイイダ駅伝部通信

折込日：2022年5月28日
サイズ：縦長B3

審査員コメント

創部半世紀の歴史を持つ駅伝部は地域市民に親しまれる存在。彼らの“強いカラダ”づくりの秘訣を記事調に表現し、スポーツ紙風にデザインを施す工夫が秀逸。メーカーとのコラボによる商品とテーマに基づいたレシピ紹介によって、顧客が悩む日々のメニューのヒントを提供し、シリーズ統編が待ち遠しくなる内容になっている。

特別賞

J-NOA Orikomi
Advertising
Grand Prize 2022

広告主

株式会社イトーヨーカ堂

出品者 株式会社朝日オリコミ

タイトル

6月は環境月間／日本財団海と日本プロジェクトチャリティキャンペーン

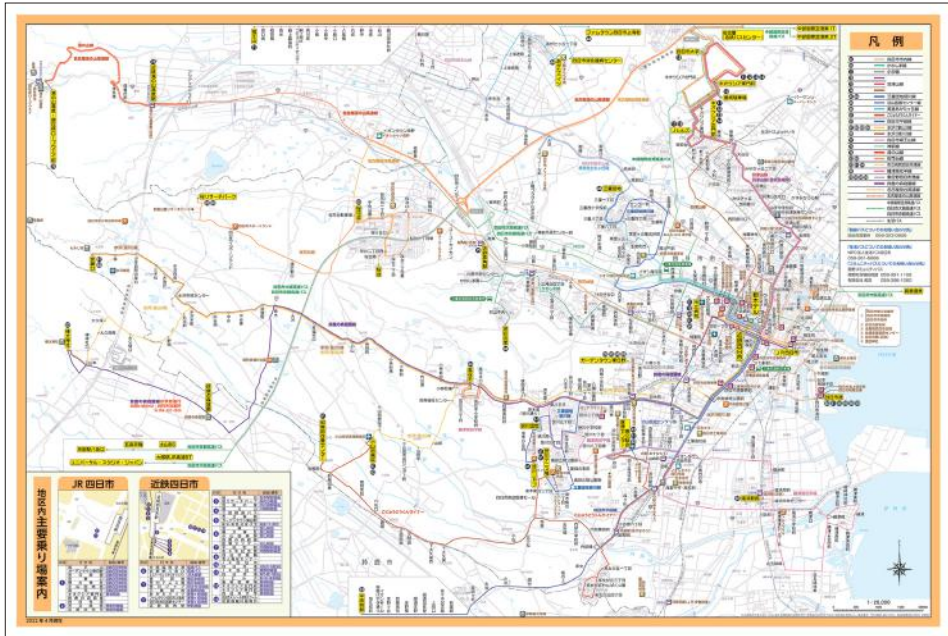
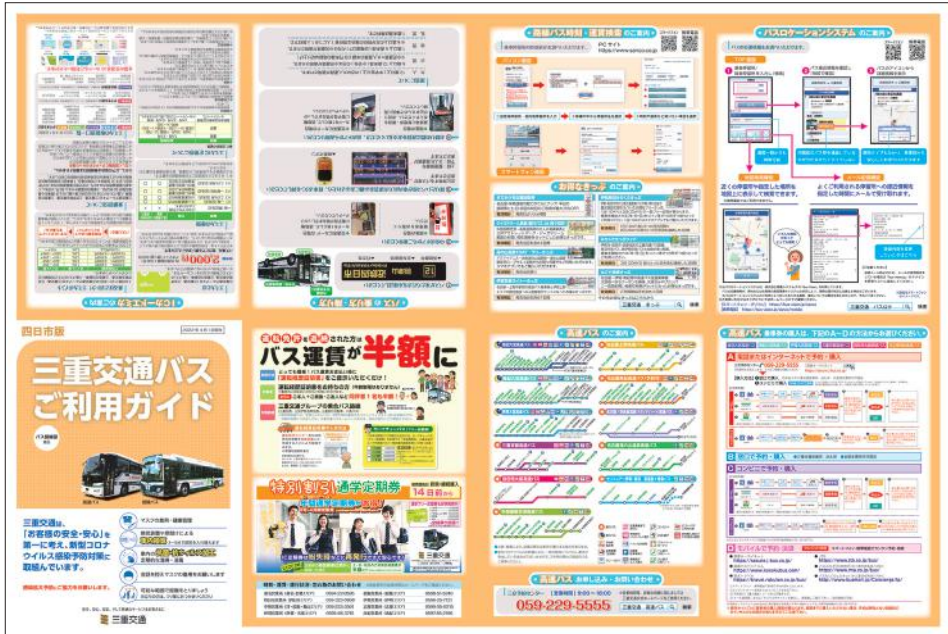
折込日：2022年6月1日
サイズ：B3

審査員コメント

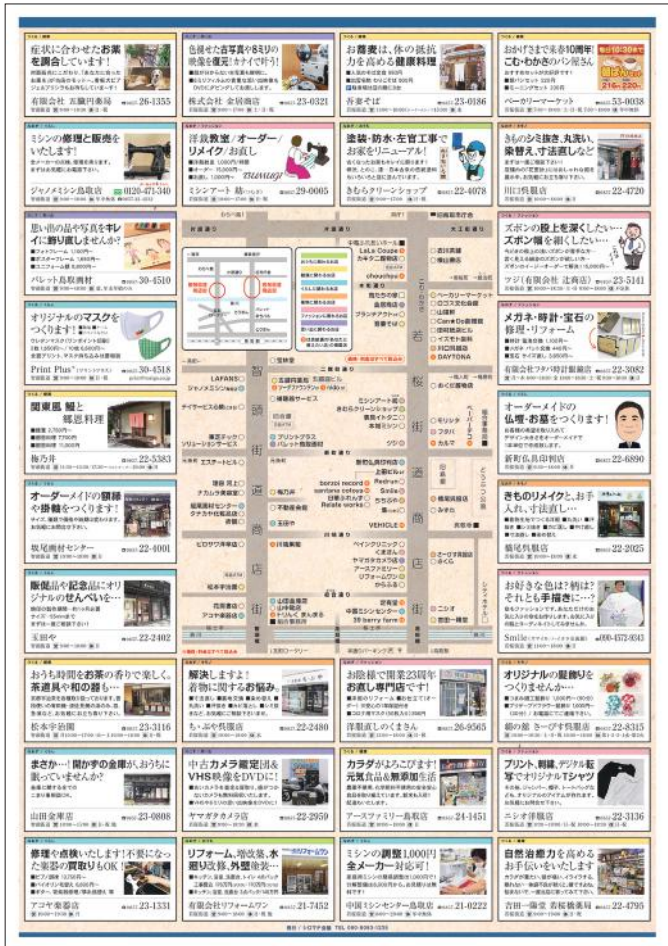
6月の環境月間は、環境保全を重視する「エシカル消費」への意識が高まる時期。本作品は、同社が取り組むサステナブルな社会づくり活動「ミライかけはしプロジェクト」を紹介し、企業市民としての同社への共感と信頼を醸成。裏面では各メーカーの環境に配慮した商品の特集し、顧客へエシカル消費を提案している点も注目だ。



広告主	三重交通株式会社	出品者	株式会社朝日オリコミ
タイトル	三重交通バスご利用ガイド	折込日	2022年3月31日
		サイズ	B2



広告主	シロマチ会議	出品者	株式会社アド・ブレン
タイトル	商店街のお役立ちべんり帳	折込日	2021年10月3日
		サイズ	B3



審査員コメント

超高齢社会の日本にとって、高齢者が利用しやすい公共交通機関「バス」の役割は大きい。そして彼らの多くがスマートフォンよりも紙のほうが親しみやすい。紙一枚でバスの乗り方を知りたい「バスがどこを走っているのか知りたい」「どんな便利なサービスがあるのか知りたい」といった情報満載の本作品の価値は高い。

審査員コメント

小さな店は一店だけで新聞折込広告を打つのは難しい。かといって、数を集めただけのチラシでは目を引かない。新聞折込広告にはメディアとしての「主張」が必要だ。本作品は「思い出まで、捨てたくない。」という主張の下、歴史ある商店街ならではの「直す」「繕う」「つくる」店を特集し、秀逸なコピーで「小商い」の魅力を紹介している。

